# 研究事例報告等概要　　2007年

**研究・事例報告**

101丸瀬布遠軽道路における景観検討

国土交通省遠軽道路事務所　太田 広　他２名

高規格幹線道路、旭川紋別自動車道の一部である丸瀬布遠軽道路（丸瀬布～豊里間、延長約18km）は、構想段階から設計段階にある。有識者や地域の代表者等で構成される「景観検討ワーキンググループ」では、丸瀬布遠軽道路の内部景観及び外部景観について、フォトモンタージュ及びコンピュータグラフィックスにより、夏季及び冬季における景観を予測し、現在の景観や優良事例と比較検討を行った。本稿では、景観検討の経過や検討結果について報告するとともに、今後の課題として、景観整備に対する費用対効果を検討するための景観価値の定量的な把握、評価手法の確立の必要性を指摘した。

102　空知地域の炭鉱跡地に対するランドスケープからのアプローチ

専修大学北海道短期大学　小林 昭裕

旧産炭地の景観は，歴史的に地域産業と不可分の関係のもとに形成された。地域経営の視点から，炭鉱関連施設の社会的意味を再評価し，ランドスケープの役割を論議することは，道内の多くの市町村に参考となる点が多い。負の評価が社会的に定着している炭鉱関連施設の保全と活用を通じ，地域活性化方策を検討するには，従来とは異なる視点が要求される。地域経営の手段として，炭鉱跡地をランドスケープの視点からアプローチするには，炭鉱関連施設と地域社会との関わりを把握し，立地条件を踏まえ，計画上の主軸の設定，および課題への視座を明確にする必要がある。本研究では，主軸及び視座の設定について，既往研究を参考に，試論を提示する。

103斜里町ウトロを事例としたゲートウェイコミュニティにおける観光客と地元住民の景観意識の把握

北海道大学大学院農学院　酒井 翔平　他２名

近年、自然観光地に隣接する街ゲートウェイコミュニティは無秩序な開発が問題視されており、観光客と地域住民の意向を踏まえた景観形成が求められる。そこで、知床国立公園の斜里町ウトロを対象に、両者の現状のウトロの景観に対する評価及び望む姿を把握し、景観形成の方向性を見出すことを目的とした。知床らしい雰囲気を感じるものは、観光客は断崖、海、山並み、森林、野生動物で、地元住民は加えて市街地内の岩を挙げた。知床らしい雰囲気を損なっているものは、観光客は看板・のぼり、地元住民は加えて宿泊施設の大きさ、路上駐車を指摘した。ウトロに望む姿としては自然と調和した景観が両者共に求められていた。

104海外の事例から見た海岸域におけるオフロード車の乗入規制について

北海道大学大学院農学研究院　松島 肇

砂浜海岸ではオフロード車の利用による自然環境悪化や他の利用者との軋轢が顕著になり、対策が求められている。本研究では、アメリカの事例を調査分析することにより、わが国の砂浜海岸におけるこのような利用管理のあり方について検討することを目的とした。アメリカにおいては、砂浜海岸におけるオフロード車の利用に関しては既に一定のルールが確立しており、保全と利用に配慮したアダプティブ・マネジメントが行われていた。我が国においても、改正海岸法を運用した砂浜海岸の利用規制が行われてきたが、利用と保全に配慮した管理のためにはルールづくりや生態系への配慮といった課題も明らかとなった。

105道立自然公園野幌森林公園利用者の動機と来訪形態からみた都市近郊林のレクリエーション利用の特徴

北海道大学大学院農学院　貝瀬 真緒　他２名

都市近郊林は、都市住民の健康維持のための適度な運動を行う身近な空間として需要が高まると考えられる。本研究では都市近郊林の利用者の動機と来訪形態の関係からレクリエーション利用の特徴を明らかにすることを目的に、道立自然公園野幌森林公園の来園者を対象に意識調査を実施した。その結果、年間を通じた利用や来園時間帯が集中しており、混雑を感じたことのある利用者も存在した。一部の利用者にはコーピング行動がみられた。また来園動機の重要度による因子分析の結果から「自然観察」「非混雑」「健康維持」の3つの因子を得た。年齢や居住地により因子得点が異なり、様々な来園動機を持っていることが示された。

106　住宅地の価格形成と居住地選択における公園緑地の効果に関する研究

北海道大学大学院農学研究院　愛甲 哲也　他２名

住宅地における公園緑地は、レクリエーションの場や景観・街並み形成など様々な効果をもつ。本研究では、札幌市およびその近郊を事例として、環境経済学的手法により公園緑地が地価に及ぼす効果および、居住地選択に与える効果について把握することを目的にした。ヘドニック法により、札幌市の住宅地の地価公示価格を、最寄の公園面積や周辺の緑地率が増加させていることが示された。また、野幌森林公園周辺住民は、選択型実験の結果より、居住地の選択において、緑がみえ、公園により近く、より大規模な公園がある場所を好んでいることが明らかとなった。

201北海道石狩浜におけるハマヒルガオ個体群の再生

北海道大学大学院農学院　山田 啓介　他４名

石狩浜砂丘での植生回復を目的に、苗移植によるハマヒルガオの導入を試みた。2004 年10 月に苗の大きさと植栽密度を変えた処理区を設け、11 月から4 月までネットで覆った（ネット有区）。一部の処理区ではネットで覆わない区（ネット無区）も設けた。ネット無区では2005 年5 月に全個体が枯死していたが、ネット有区では全処理区で70％以上が生存しており、2007 年6 月に被度が20％以上となった。このことからハマヒルガオの苗を定着させるには、冬期の強風による砂の移動を抑える必要があると考えられた。また、ネット有区では2006 年に0.0～2.3 個／㎡、2007 年に7.0～16.3 個／㎡の開花、結実が確認できた。

202住宅地における小学校の環境教育と連携したどんぐり緑化に関する研究

室蘭工業大学大学院　内田 奈穂子　他１名

本研究では，どんぐり緑化を小学校の環境教育の一環として住宅地で実施することによる，環境教育及び緑化に対する効果や可能性について検討することを目的とした。主な結果として，どんぐり緑化が小学校の環境教育プログラムとして期待されていること，教員が環境教育に必要と考える内容とどんぐり緑化に期待する効果が一致していること等が把握された。教員はどんぐり緑化が住宅地で実施されることに関して懸念している一方で，地域住民は小学校の環境教育に対して肯定的であるということから，どんぐり緑化に対しても肯定的であること等が把握された。

203　街路樹ニセアカシアの外部損傷と内部腐朽について

北海道立林業試験場　石井 弘之

街路樹として植栽されているニセアカシアの外部に現れた損傷と内部の腐朽との関係を調査した。幹における木部の露出は内部腐朽とは結びついていないこと，地際における溝状の樹皮の巻き込みがあるものは芯腐れが起きていること，キノコは発生地伝付近で大きな腐朽が広がっていることを示している，という特徴が明らかになった。ただし，樹木の腐朽は立地条件，発生原因，感染する菌の種類や経過年数等により広がり方が異なり，今回整理した類型に当てはまらない例も多く見られることから，更に内容を整理していくことが求められる。

204　学校を事例とした緑視率からみた屋上緑化の評価について

専修大学北海道短期大学　岡田穣　他１名

屋上緑化のもつ機能のうち景観向上機能に着目し、緑視率の違いが人の評価に与える影響を確認することを目的とし、学校を事例としたシミュレーション写真による景観評価実験を行った。シミュレーション写真は緑化の構成要素として芝生のみを使用し、背景あり2パターン、背景なし14パターンの計16種類を用いた。その結果，全般的に緑視率が高い写真で評価が高いことが確認され，緑視率が高まるにつれデザインによる評価や有意差に変化はみられなくなった。また，デザインの違いが評価に影響を与えることも確認され，デザインによっては緑視率の違いによる有意差がなく，緑視率の影響が少ない場合があることが確認された。

205風景デザイン行為における「実践」の文化人類学的試論

北海道大学大学院文学研究科　片桐 保昭

「風景」の表現における審美的な価値観を「風景」が構築される社会過程として記述するため、ランドスケーププロジェクトにおけるデザイン過程を文化人類学的手法であるアクターネットワークの形で整理した。既存の「科学技術」では評価できない形態は、主観的として排除されるように見えるが、デザイナーは合理性を装って「実践」する。顕著な例としてモダンデザインを模倣した「ハイスタイルな」形態がデザインされる過程を考察した。社会における意味の拘束は重要な要素として風景中の中心的な位置を占めるが、意味が地位出来ない「審美」感覚は重要ではない周辺的な要素として積極的な環境ノイズとしてデザインされることを明らかにした。

206都市公園における不法投棄発生の現状および発生誘因に関する考察

北海道工業大学　椎野 亜紀夫

本稿は札幌市における不法投棄発生の現状を整理した上で，特に都市公園内およびその周辺で発生している不法投棄事例に注目してその原因を考察することを研究目的とした。札幌市内の都市公園2595ヵ所をGIS上でポリゴンデータとして作成し，不法投棄発生地点との位置関係について解析した結果，都市公園に近接する不法投棄地点は合計105件見られた。都市公園の中には不法投棄が集積しやすい公園があることが事例として見られ，公園単体でなく接道条件や隣接土地利用条件が不法投棄を誘発させていると考えられることから，都市公園を一要素とする地域空間全体での改善策を検討する必要がある。

**ポスターセッション**

301　実務報告４作品－地域再生を目的としたランドスケープ・プロジェクト－

札幌市立大学デザイン学部 　山田 良○

「くまもとアートポリス事業」（2001年　熊本県）、「大地の芸術祭・越後妻有アート・トリエンナーレ事業」（2003年、2006年　新潟県）、「十勝千年の森プロジェクト」（2007年　北海道）におけるランドスケープもしくはランドアートのプロジェクトについて、そのプロセスを含めた設計４作品の実務報告としてポスターにまとめたものである。これらの各プロジェクトにおいて、敷地の調査分析、地域の特色を活かした材料の選定、実施詳細設計、完成後のメンテナンス計画に至るまで携わった。また地域でのワークショップや協同の施工作業を全体計画にとりこみ、地域住民による参加型プロジェクトとして実践した。

302宮城県松島における養殖筏からみた食と景観との関わりについて

宮城大学食産業学部　星 美幸○

専修大学北海道短期大学　岡田 穣

宮城県松島は日本三景の一つであり，多くの島からなる多島景観を観光客がその景観を楽しんでいる。それと同時に松島湾は日本でも有数のカキ養殖生産地でもある。よってそこには多島景観による観光の場と養殖筏を主体とした食生産の場としての景観が成立している。そこで本研究では養殖筏のある景観に着目し，現状の把握として空中写真による平面的な把握，江戸時代より景観鑑賞の場として利用されていた「四大観」からみた養殖筏の可視状況の把握を行い，観光客の養殖筏への景観としての評価を把握するためのアンケート調査を行った。そしてこれら結果より養殖筏を景観として捉えた場合の現状と評価について検討した。